

富山県富山市八尾町における伝統的な木造建築技術を生かした 建築文化の振興と歴史的町並み修景貢献

石 原 博 殿

富山県富山市にある八尾町は、「おわら風の盆」で有名な民謡と踊り、「曳山祭」などの多彩な伝統行事を生活の中に活かし続けている町である。こうした生活が名刹聞名寺の門前町として藩政時代から栄えた伝統的な歴史的町並みのなかで営まれて来たわけだが、1980年代にはこの歴史的町並みの景観が住宅の現代化によって崩れていく傾向が強くなって来たのである。これに危機感を抱いた町（当時は婦負郡八尾町で独立の自治体であった）は、建設省が推進していたその土地々々の文化や歴史、風土の特性を生かした良好な住宅市街地を創出し、地域文化と地域住宅生産の育成を行うという「HOPE（Housing with Proper Environment）計画」に応募して採択され、1986年から「八尾町 HOPE 計画」を実行するに至ったのである。当然この計画は歴史的町並み景観の維持や修景ということを含むものであった。そうしてこの実行にあたって中心的な役割を果たしたのが地元の建築業を営む人たちであり、こうした人たち、大工棟梁・工務店 16 社、設計事務所 5 社によって 1989 年に自らの運動体として結成されたのが「八匠」である。

「八匠」が推進したのは黒瓦の屋根、登り梁、出桁構造、深い出を持つ軒、白漆喰壁、格子戸などの伝統工法、伝統的意匠による八尾町の歴史的景観と調和した現代的な家づくりである。「上野かざみ台団地」をこの八尾型伝統工法モデル住宅群として建設し、町民に実例を示し体験して貰うとともに、こうした歴史的景観を尊重してゆく価値観を町民たちの間に醸成してゆくことを行った。こうした運動が効を奏して、特に行政の補助がなくとも町民の八割以上が歴史的景観と調和した家作りを望むようになったのであり、「八匠」の持つ伝統工法に根ざした建築技術がこの要望に応じていったのである。「八匠」はまた、地元の伝統工法が失われてしまわないように、この伝承を行ってゆくための後継者育成の活動も行っている。現在「八匠」には百人以上の職人が加盟して活動を行っている。2007 年からは富山市が「八尾地区まち並修景整備事業」を行っているが、「八匠」は行政と町民の中間に立って、この補助金修景事業が最も有効に作動すべく調整を行い、結果として美しい歴史的町並み景観を形成することに寄与している。

「八匠」はこのように地元、土着の建築技術者集団が、歴史的町並み景観の保存、修景と両立する現代的な生活空間の維持に関して、行政と住民との間の専門知識と伝統技術を駆使するコーディネーターとして良好に機能しているユニークな組織である。

八尾町の建築業「㈱石原建築」の会長である石原博氏は「八匠」発足時からのまとめ役で、優れた調整力と卓越したリーダーシップをもって運動を指導・推進し、「八匠」の組織を現在にまで育て上げた中心人物である。このように地域建築文化を守り振興する建築技術者集団を育成し、またその運動を成功に導いたことは日本建築学会文化賞にふさわしい業績である。

よって、ここに日本建築学会文化賞を贈るものである。